校長室だより

R5.6.27　Vol.12

２名増えました！

劇団 IWAKI のメンバーに 5 年生が２名！増えました。「私たちもやりたいです！オーディションしてください！」と校長室に乗り込んできました(笑)。そして６月の校長訓話、やっている本人たちはもちろん一生懸命なのですが、それを見ている児童たちもとても一生懸命です。そして低学年の子供たちも自分の考えや思いを発表しようと集中しています。

子供たちが、一生懸命何かに取り組む姿は、見ていてとても気持ちがいいです。

それぞれの先生がそれぞれのやり方で子供たちを育てています。いろいろな角度・視点から子供たちに関わってくれるうちの職員。わたしの自慢のひとつです。

（はい！手前味噌です。何か？笑）

我が身をつねって…

わたしの好きな歌い手さんに「Uru」さんって方がいます。この方の歌う歌はどれもとても素敵で、聞いていると何か心が揺さぶられる気がします。そのナンバーのひとつに「心得」という曲があります。

「我が身をつねって、人の痛さを知れ」

歌の一節です。これって人との関わりの中で一番大切にしないといけないことだと私は思います。勉強やスポーツができること、子供にしても親にしても、とても喜ばしいことです。もちろん私たち教師もそうです。ただ、成人した先まで見通すと、人の痛みの分からない人間は、結局は誰からも信頼を得ることはできない気がします。

学校でも家庭でもしっかり指導し、躾ていきたいことです。大人になると誰も注意はしてくれません。「そういう人だから…」と思われる人間にはなりたくないですね。…もうなってるかも…(汗)

四方山話令和5年度 ver.　其の十二（僕のばあちゃん）

運動場に出て周辺を眺めていると、モンシロチョウがたくさん飛んでいます。その様子を見るたび、4年生で学習する「白いぼうし」を思い出すのですが、わたしの祖母のことも甦ってきます。小原の母の里に、子供の頃、よく遊びに来ました。家の前に畑があり、そこにいろいろな草木が植えられていました。虫好きだった私はその畑にいる虫を見るのが大好きでした。その中にキャベツがあり、葉の裏にアオムシを見つけました。「わっ！アオムシがおる。写真で見るのと同じだ！」自宅の周りに畑がない私にとっては、大発見でした。うれしくてうれしくて、すぐ近くで畑の手入れをしていた祖母に「ばあちゃん！アオムシ見つけた！」と話しかけると、「どこ？」と近くにやってきました。「ほら！ここ！ここ！」とアオムシを指さすと「ほんとよ。」と言うやいなや、指でつまんで取り、足もとに捨て、踏んづけました。「えええええええー！」『いつも優しくて、僕のいうことを聞いてくれるばあちゃんが…アオムシをぺっちゃんこにした…ばあちゃん、ぼくは今、ショックを受けてるわけで…いつものばあちゃんはどこに行ったの？もしかしてあなたは別人？？(爆泣)』何事もなかったかのように作業に戻る祖母の背中に鬼が見えました。トラウマ級のショックでした。私にとっては宝物だったアオムシも、祖母にとっては生活の糧を食い荒らす害虫でしかなかったことに気付くまで、かなりの時間を要しました。（その時間が私を癒してもくれましたが…笑）

立場変われば、同じ物事でも全く違うものになります。時に子供の目線になって考えてやることも大事ですし、時に祖母がしたように生活していくことの厳しさを教えてやることもまた大事だと思います。（祖母にそんな気持ちは1ミリもなかったと思いますが…）子供目線に偏ればわがままな子になるかもしれません。大人目線に偏れば、顔色ばかり伺う子になるかもしれません。子育てはバランスですね。アオムシが教えてくれました。（笑）